

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和5年度	会計コード	10	一般会計	事業コード	91880
事業名	シティクロスカントリースキー大会実証実験費					
評価担当課	所 属	ス)スポーツ部 スポーツ都市推			電話番号	011-211-3042
施策名	身近なところでウィンタースポーツを楽しむことのできる環境が充					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外					
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費			○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理費		
	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助・助成 ○ その他					

事業内容	事業の背景(現在の状況、社会的課題)	市内で開催されるクロスカントリースキー競技大会は、主に白旗山競技場や西岡バイアスロン競技場など、市街地から離れた郊外で開催されており、大会の開催が全市的な盛り上げにつながっていない このため、ウィンタースポーツの振興や観戦文化の醸成に向けて、市街地でクロスカントリースキー競技大会を継続的に開催していく必要がある
	事業内容(何を実施し)	札幌ならではの冬の賑わいを新たに創出するため、市街地におけるクロスカントリースキー競技の国際大会開催を目指し、アスリートを対象としたクロスカントリースキー大会の実証実験を行う。また、大会開催に要する費用を一部負担する。 【令和5年度事業概要】 ①イベント名称:さっぽろスノースポーツフェスタ2024 ②開催日時:令和6年2月11日(日・祝) ③会場:豊平川河川敷(南大橋付近) ④来場者数:2, 928人(競技者含む) ⑤開催競技: ・ジュニア部門:小学1年(男子のみ)、小学2～6年生、中学生 計13カテゴリー・55名参加 ・パラアスリート部門:知的(一般)・座位(一般)・立位／視覚(一般)計4カテゴリー・13名参加 ⑥イベント:ウィンタースポーツ体験会 8種目(スキー、スノーボード、クロスカントリースキー、スノーシュー、シットスキー、アイスホッケー、カーリング、バイアスロン)、ステージイベント、パラアスリート交流会
	どのような状態にしたい(状態を維持したい)	将来の国際大会誘致を見据えながら、市街地でクロスカントリースキー競技大会を開催し、多くの市民が間近で観戦する機会を創出することにより、札幌市民にとってウィンタースポーツが身近なものとして浸透することを目指すとともに、ウィンタースポーツに興味を持ち、実施(運動)をする市民の増加に寄与する
	他都市の状況	市街地でのクロスカントリースキー大会開催事例 ■FISワールドカップ(スプリント種目):ドランメン(ノルウェー)、デュッセルドルフ(ドイツ) ■国際スキーマラソン:札幌、大滝、美瑛、旭川
	市民参加の実施	☐ 企画 ☒ 実施 ☐ 評価 ☐ 対象外

令和4年度決算額	6,031 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	0.5 人工
令和5年度予算額	20,000 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	0.5 人工
令和5年度決算額	19,075 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	0.5 人工
令和6年度予算額	18,000 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	0.5 人工

指標	アウトプット活動指標1	市街地におけるクロスカントリースキー競技大会の開催		という活動、業務を行うことで			
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
		1	1	1	1	1	1
	↓						
	アウトカム成果指標1	ウィンタースポーツ実施率の向上(18歳～49歳・年1回以上)		という状態にしたい、成果を挙げたい			
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
		18.9	20	20	21	22	23
	指標1の評価、未達理由、今後の考え方	クロスカントリースキー大会にあわせて、ウィンタースポーツ体験会を開催することで、市民のウィンタースポーツ実施率の向上を図る					
	アウトプット活動指標2			という活動、業務を行うことで			
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
	↓						
	アウトカム成果指標2			という状態にしたい、成果を挙げたい			
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
	指標2の評価、未達理由、今後の考え方						

今年度の見直し内容	今年度は、さらなる賑わいの創出や観戦文化の定着に向け、会場を大和ハウスプレミストドームに移し、競技大会の魅力向上やウィンタースポーツ体験会などのコンテンツの充実化を図る
来年度以降の方向性	将来の国際大会誘致を見据え、競技連盟等と協議を進めながら、試行的な大会の開催実績を積み重ね、継続的な大会開催に向けた検討を行う。また、より多くの市民に参加・観戦してもらうため、集客数を確保できる大会形式の検討を行うほか、大会の将来的な自走化に向けて、企業協賛の拡大の可能性を探っていく